

第 170 回大阪府内水面漁場管理委員会 議事録

1 開催日時	令和 5 年 8 月 7 日（月曜日） 午後 3 時 10 分から午後 4 時
2 場 所	大阪府咲洲庁舎 23 階 内水面漁場管理委員会会議室
3 出席委員	辻野 耕實、森下 雅子、坂口 俊博、奥 一治、奥 正雄、 橋本 俊哉、門口 康次
4 府関係者	池田 孝雄、山脇 敏広、井上 実、 山本 義彦（生物多様性センター、オンライン）
5 事務局	大道 斉、久保 佳洋、池田 栄太郎
6 議事事項	(1) 漁業権免許（内水面） (2) 令和 5 年度マス類増殖計画 (3) 漁業法第 90 条に基づく資源管理の状況等の報告
7 議事概要	
事務局 （大道書記長）	<p>定刻となりましたので、ただ今から第 169 回大阪府内水面漁場管理委員会の開催をお願いしたいと思います。</p> <p>お手元にありますピンバッチについて。こちらのピンバッチは、本年 10 月 28、29 日に堺市で開催される G 7 大阪・堺貿易大臣会合を広く周知し、会合の成功に向けた機運を醸成するために作成されたものです。ついては、着用についてご協力よろしくお願いします。</p> <p>また、全国内水面漁場管理委員会連合会の会報をお配りしています。さらに、令和 5 年の議会便覧もお配りしています。</p> <p>本日は、鶴田委員が欠席となっております。結果、委員 7 名に出席いただいておりますので、本日の委員会が有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>次に、今年 4 月に事務局の職員に異動がありまして、書記長が井坂から私、大道に代わりました。また、書記の宗石から池田に代わりましたこと、報告いたします。</p> <p>本日は、生物多様性センターから山本研究員にリモートでご参加いただいております。</p> <p>本日の議題は、お手元の次第にありますように、 「漁業権免許（内水面）」 「令和 5 年度マス類増殖計画」 「漁業法第 90 条に基づく資源管理の状況等の報告」 の 3 件でございます。</p>

	<p>それでは、辻野会長、議事の進行、よろしくお願いします。</p>
辻野会長	<p>本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>ただ今から、第 170 回大阪府内水面漁場管理委員会を開催させていただきます。</p> <p>議事に入ります前に、議事録署名人を、大阪府内水面漁場管理委員会規程第 6 条の規定に基づき、私から指名させていただきます。</p> <p>議事録署名人につきましては、門口委員と奥正雄委員にお願いします。</p> <p>それでは、議事に入ります。</p> <p>一つ目の議題は、「漁業権免許（内水面）」についてです。</p> <p>漁業権の免許及び遊漁規則の認可について、水産課から説明をお願いします。</p>
水産課 (井上主査)	<p>水産課の井上です。</p> <p>議題の（１）ですが、9月の内水面における漁業権の更新に向けて、昨年度より準備を進めてまいりましたが、今回、各漁業協同組合から、漁業権免許の申請と遊漁規則の認可申請が出てきましたので、ご説明をさせていただきます。</p> <p>まず、最初に、お手元の資料１－１「漁業権更新のスケジュール」により、漁業権免許の流れについて簡単に説明させていただきます。</p> <p>色を付けている箇所が、委員会に対し説明や諮問等をさせていただいた項目になります。</p> <p>昨年度より、上から順番に更新に向けた必要な手続きを、順番に進めてきたところです。</p> <p>組合へのヒアリングや河川管理者との関係機関協議、パブリックコメント等を経て、漁場計画案を作成、3月17日の内水面委員会への諮問、答申をいただいた上で、5月12日付けで内水面漁場計画を作成、公示をしています。</p> <p>なお、公示した漁場計画につきましては、参考資料１としてお配りしておりますので、必要に応じてご覧いただければと思います。</p> <p>その後、公示に基づいて、免許申請がなされ、適格性について水産課で事前審査を行っています。本日、内水面漁場管理委員会に対し、提出のあった免許申請について諮問いたします。その後、答申をいただければ、9月1日に免許をすることとなります。また同様の流れで遊漁規則</p>

認可申請についてもご審議いただき、認可を行います。

なお漁業権行使規則についても、同様に認可申請の提出がありまして、こちらについては、内水面漁場管理委員会への諮問の規定がありませんので、水産課で認可に向けた事務を進めてまいります。

次に資料１－２をご覧ください。こちらは水産課で事前審査を行った際、どのような点を審査・検討したかをまとめた資料になりますので、ご審議いただく際の参考にしていただければと存じます。

まず、１．漁業権免許について、（１）免許についての適格性、これは漁業法第 72 条第 2 項に規定されているものですが、団体漁業権（漁業協同組合が取得する漁業権）の適格性を有するものは、その組合員のうち、関係地区に住所を有し、１年に 30 日以上河川漁業を営む世帯数が、関係地区に住所を有し、１年に 30 日以上河川漁業を営む世帯数の 3 分の 2 以上であるものとされています。

要するに、河川漁業を行っている者の 3 分の 2 以上は組合員でなければいけないということです。

これに関しては、大阪府の場合、河川漁業を行っているのは組合員だけであり、それ以外の者が漁業を行っていないため、実態として河川漁業を行っている者は全て組合員であるため、共同漁業権の免許の適格性を有しているといえます。

次に、（２）内水面漁業における第 5 種共同漁業の免許について、漁業法第 168 条に規定されているものですが、第 5 種共同漁業権の免許を受けたものが、水産動植物の増殖をする場合でなければ免許してはならないとあります。

これについては、各組合から免許申請に合わせて、提出のあった増殖計画、今後どのようにして増殖を行っていくかを記載した計画書ですが、こちらの放流量が増殖指針に定められている増殖基準量を上回っていましたので、適正と判断しています。

なお、今回の免許申請にあたり定めた増殖基準量については、追ってご説明します。

次に、２の（１）遊漁規則について、漁業法第 170 条第 5 項に規定されているものですが、遊漁を不当に制限するものでなく、遊漁料の額が水産動植物の増殖及び漁場の管理に要する費用から見て妥当なものである場合は認可しなければならないとなっています。後ほど別途資料を用いて説明しますが、今回認可申請のあった内容については、遊漁を不当に制限するものでもなく、遊漁料も妥当な価格であることから適正と

判断しています。

以上により、全ての申請者は漁業権を免許する適格性を有しており、遊漁規則についても妥当なものと判断できるため、これらは適正であると考えられます。

それでは、漁業権免許の内容について説明しますので、資料１－３をご覧ください。内水面漁場計画に基づき、関係漁業協同組合から申請された内容の一覧です。

101 号は能勢町の大路次川と山辺川で、能勢町漁協のあゆとます類の漁場の申請があります。また組合員で関係地区内に住所を有し、１年に30 日以上、河川漁業を営むものの世帯数は34 世帯となっています。

102 号は箕面市から豊能町にかかる余野川で、箕面市側は止々呂美漁協のあゆとます類、豊能町側は東能勢漁協のあゆ漁場の申請があります。止々呂美漁協の世帯数は74 世帯、東能勢漁協の世帯数は19 世帯となっています。なお、申請の代表者は止々呂美漁協です。

103 号は茨木市の安威川と下音羽川で、安威川上流漁協のあゆとます類の漁場の申請があります。世帯数は79 世帯です。

104 号は高槻市の芥川で、芥川漁協のあゆとます類の漁場の申請があります。世帯数は161 世帯です。

最後に、105 号は島本町の水無瀬川で、尺代漁協のます類の漁場の申請があります。世帯数は26 世帯です。

各漁業組合とも大阪府の策定・公示した漁場計画の内容とおり申請されており、漁場の位置及び魚種ともに相違ありません。

また、漁業法第72 条第2 項の適格性についても、先に説明したとおり、全てが組合員であるため、適正であります。

次に、組合から提出のあった増殖計画についてご覧いただく前に、今回の免許更新にあたり、大阪府で作成した増殖指針について説明いたしますので、資料１－４と５を、お手元にご準備ください。

資料１－４の増殖指針について説明します。

こちらは、6 月15 日付けで作成、大阪府ホームページにて公表しています。

以下、読み上げさせていただきます。

第五種共同漁業権は、漁業法第168 条の規定により、免許を受けたものが増殖を行うことが義務付けられています。

この指針は、令和5 年9 月に免許予定の第5 種共同漁業権について、免許の可否の基準として大阪府知事が定めるものです。

第1 増殖方法として、法第168条でいう「増殖」とは、以下の行為をいい、単なる漁具、漁法、漁期、漁場及び採捕物に係る制限又は禁止等消極的行為に該当するものは、含まれません。

(1) 人工ふ化放流、卵、稚魚又は親魚の放流等の積極的人為的手段により、採捕の目的をもって水産動植物の数及び個体の重量を増加させる行為です。

(2) 産卵床・産卵場の造成や、堰堤等により移動が妨げられている滞留魚の汲み上げ放流や汲み下ろし放流です。

第2 増殖基準量として、漁業権者が、計画的に資源の拡大増殖を行うために実施する放流量は、別表に定める量以上とします。ただし、産卵床の造成等繁殖のための施設の設置、堰堤によってそ上が妨げられている滞留魚の汲み上げ再放流する等在来資源のそ上確保等について、その効果が増殖放流量に換算し得る場合には、放流量に組み入れることができます。

その下の別表に各河川の増殖基準量を示しています。

次に、資料1－4で、各河川の増殖基準量を計算した内容について、説明いたします。

資料1－5をご覧ください。増殖基準量の考え方を示しています。

あゆについては、各漁業権河川の川床構造を考慮し、その河川に生息できるあゆの量を増殖基準量としています。

河川面積、河床別面積比、河床別生息密度を掛け合わせて算出した生息基準量に対し、1に歩減り比率の0.33を足し合わせた1.33と稚魚従量である4グラムを掛けて、増殖基準量を算出しました。

河川面積に関しては、漁業権河川区域の面積として、基点区域の距離と流れ幅をかけて算出しています。

河床別面積比に関しては、河床構造のうち早瀬、平瀬、淵、とろの区分に属する面積比を出しています。令和4年度に生物多様性センターに委託した漁業権河川実態調査の数値を使用しています。

河床別生息密度は、河床構造別のアユの生息密度の数値が、2012年の論文に掲載されていますので、その数値を使用しています。例えば、早瀬では、1平方メートルあたり0.46尾という数値を使用しています。

歩減り比率は、放流後に漁獲されるまでに減少するアユの割合で、0.33を採用しています。昭和53年の水産室資料の数値を使用しています。

稚魚重量は、4グラムの稚魚を放流した場合を想定しています。

各河川の計算結果をもとに、各漁業協同組合の増殖基準量を右側の表に示しています。なお、安威川上流漁業協同組合に関しては、安威川ダムの立入制限区間を計算から除いています。

次に、マス類の増殖基準量について説明します。アユの考え方を今年から採用しまして、河川面積に生息基準量、1 + 歩減り比率の 0.1、成魚重量の 20 グラムをかけあわせて算出しています。

河川面積に関しては、漁業権河川区域の面積で、区間距離に流れ幅をかけて算出しています。生息基準量は、水産庁の平成 20 年の資料から、数値を採用しています。歩減り比率は、放流後から漁獲されるまでに減少するマスの割合で、0.1 を採用しています。昭和 53 年の水産室資料の数値を使用しています。

成魚重量は、20 グラムの成魚を放流した場合を想定しています。

右側に、各漁業協同組合の増殖基準量を記載しています。

資料 1 - 5 の説明は以上です。

続いて、資料 1 - 6 をご準備ください。こちらは、各漁業協同組合から提出のあった増殖計画の数値を一覧にまとめています。表側にアユ、裏側にマスの増殖計画を記載しています。増殖指針の値よりも大きい数値で増殖計画を策定されています。

続きまして、資料 1 - 7 をご準備ください。こちらは、各漁業協同組合から提出のあった遊漁規則の内容を一覧にまとめています。この遊漁規則は、各組合が有する漁場において、組合員以外の者がする遊漁についての制限に関し必要な事項を定めるものです。認可にあたって、漁業法第 170 条第 4 項に基づいて、内水面漁場管理委員会に諮問させていただきます。(1) に各漁業権河川における遊漁期間を、(2) で遊漁料等を記載しています。

遊漁期間については、漁場計画に示している漁業時期の期間内で定められており、遊漁を不当に制限するものではありませんので、適正な内容と判断しています。

次に遊漁料については、現行額と申請額を記載しています。金額に変更はあるものの、遊漁を不当に制限するものではありませんので、適正な内容と判断しています。

また、遊漁料については、増殖行為や漁場管理にかかる費用から値段を設定されており、過去の金額から増額したものの、極端な増額ではないため、妥当な価格と考えています。

以上のことから、遊漁規則も適正であると考えています。

	説明は以上となりますので、ご審議の程よろしくお願いいたします。
辻野会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、漁業権の免許申請及び遊漁規則の認可申請について、併せてご説明をいただきましたが、ご質問・ご意見等ございませんか。</p>
各委員	(質疑等なし)
会 長	ないようでございますので、説明ありました漁業権の免許及び遊漁規則の認可について、諮問の内容どおり、免許するということで、よろしいでしょうか。
各委員	(了承)
辻野会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、漁業権の免許及び遊漁規則の認可についての答申案を事務局から配布し、読み上げてください。</p>
事務局 (大道書記長)	(答申案の読み上げ)
辻野会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>読み上げていただきました本答申案でよろしいでしょうか。</p>
各委員	(異議なし)
辻野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、この答申案をもちまして、知事に答申させていただきたいと思います。事務局で答申の手続きをお願いします。</p> <p>それでは、議題2の「令和5年度マス類増殖計画」について審議したいと思います。</p> <p>水産課から、目標増殖量の考え方や実績について説明をいただき、その後事務局から「令和5年度マス類増殖計画」(案)について、説明をお願いします。</p>

<p>水産課 (井上主査)</p>	<p>水産課の井上です。</p> <p>水産課からは、参考資料２－１から２－４までを用いて、マス類増殖目標の概要、令和４年度の増殖の実績、河川の状況等について説明します。</p> <p>それでは、参考資料２－１「マス類増殖目標について（概要）」を使いまして、その他、後ろの参考資料も併せて見ていただきながら、順番にご説明させていただきます。</p> <p>まず、１概要の（１）関係法令等ですが、漁業法、水産庁長官からの技術的助言「海区漁場計画の作成等について」、これら２つに基づいて、本事務を実施しているところです。</p> <p>つづきまして、（２）ですが、内水面の第５種共同漁業を免許するにあたっては、漁業法第１６８条の規定によりまして、当該内水面が水産動植物の増殖に適しており、かつ、当該漁業の免許を受けた者が当該内水面において水産動植物の増殖をする場合でなければ免許してはならないと規定されています。</p> <p>続きまして、（３）ですが、水産動植物の種類、増殖方法及び増殖規模等を内容とする増殖指針を作成することとなっており、今回は、令和４年度の実績について確認することになるため、平成３０年の漁業権免許更新時に作成したものを、参考資料２－２の①と②でお配りしており、①には平成３０年の漁業権更新時に作成した、各漁業権河川のマスの基準増殖量が記載されています。</p> <p>２ポツ目ですが、増殖基準量については、②に当時の基準増殖量の考え方が記載されており、大阪府内の漁協では釣堀的な利用をしていることから、年間１０回放流することを想定し増殖基準量としています。</p> <p>続きまして、（４）毎年度の目標増殖量について、水産庁の技術的助言によりまして、漁業権免許後は、漁業権者が計画的に資源の拡大的増殖を行うよう、委員会が、毎年その年度の目標増殖量等を各漁業権者に示し、かつ、委員会名でこの目標増殖量等をインターネット等で一括公示することとなっています。</p> <p>委員会が毎年目標増殖量等を決定するに当たっては、漁場環境の変化、天然再生産等、技術的な調査、専門家の意見、過去の実績及び漁業権者の経済的負担能力等を十分勘案し、適正なものとするよう考慮することになっています。</p> <p>つづきまして、令和４年度のマス類漁業の実績、河川の状況等について説明します。</p>
-----------------------	--

参考資料 2－3 をご覧ください。各漁協の目標増殖量とその実績、河川利用者数と遊漁券発行状況は令和 3 年度と令和 4 年度の結果を記載しています。

能勢町漁協は、増殖目標 300kg に対し、実績は 300kg で目標を達成しています。河川利用者数と遊漁券発行数は 219 で、昨年から少し減少しています。

止々呂美漁協は、増殖目標 24kg に対し、実績は、ニジマス 800kg でした。また、河川利用者数は 887 人であり、昨年度の 165 人から増加しています。遊漁券発行状況も 887 枚と同数でした。

安威川上流漁協は、増殖目標 15kg に対し、実績は、ニジマス 235kg、アマゴ 110kg の合計 345kg でした。河川利用者数は不明となっています。遊漁券発行状況は 442 枚であり、昨年度の 206 枚から増加しています。

芥川漁協は、増殖目標 810 kg に対し、実績は、ニジマス 18,400kg、ヤマメ 200kg、イワナ 200kg の合計 18,800kg でした。河川利用者数は 20,000 人であり、昨年度と同数でした。遊漁券発行状況は 9,851 枚であり、昨年度の 10,745 枚と比べやや減少しています。

尺代漁協は、増殖目標 150 kg に対し、実績は、ニジマス 1,414kg、アマゴ 1,865kg、イワナ 20 kg の合計 3,299kg でした。河川利用者数は 6,985 人であり、昨年度の 6,447 人と比べやや増加しています。遊漁券発行状況は 2,534 枚であり、昨年度 2,817 枚と比べやや減少しています。

以上のように、全ての組合において増殖目標を達成しました。

目標増殖量を大幅に上回っている河川がありますが、これは、大阪府のマス漁業が釣堀的経営であり、本来の河川に生息する魚を釣る形態とは異なり、釣客が来るたびに追加で放流し、それを釣るという形態であるため、釣客が多い漁協は、実態として実績が大きくなっています。

続きまして、参考資料 2－4 「河川の状況等について」説明します。

まず、能勢町漁業協同組合の河川状況についてです。近年、台風等による急激な増水でマス釣り場に土砂が流入し、重機で浚渫を行っているものの、短期間で再度埋まり、釣りができない期間があるとのこと。

カワウ等による被害についてです。カワウやサギによる被害がありロケット花火や見回りによる追い払いを実施しています。マスの釣り残しは全て食べられてしまうとのこと。

新型コロナウイルス感染症による影響についてです。令和 4 年度は当初は若干多めの人出であったが、その後徐々に減少した。令和 5 年度は

利用者が減少しており、5類感染症移行後は更に減少した。

組合運営の近況等についてです。水カビ病の発生等によるマス全滅といったトラブル、客足の減少により組合運営は厳しい状況にあります。組合員の高齢化により釣り場の管理等も大変な状況であるため、若い組合員の加入が必要と考えています。

続いて、止々呂美漁業協同組合です。

河川の状況について、大雨による増水で漁場が利用できない状況が多い。復旧に多額の費用を要しているとのことです。

カワウ等による被害について、カワウやサギ等による被害があり、見回りやロケット花火による追い払いを実施しているとのことです。

新型コロナウイルス感染症による影響について、特にございません。

組合運営の近況等について、令和5年度から完全予約制に移行した結果、駐車や渋滞トラブルも無くなり、スムーズな運営に寄与しているとのことです。

続いて、安威川上流漁業協同組合です。

河川の状況について、採石業や安威川ダム建設事業、新東名高速道路建設事業の影響により、水質悪化と山林の保水機能の低下が起っており、平時流水量が減少している。漁業活動のみならず、オオサンショウウオ等水生生物の減少など、河川生態系にも悪影響があると報告を受けています。

カワウ等による被害について、被害は年々増加傾向にあり、令和5年度からは防鳥糸を設置し被害防止に努めている。

新型コロナウイルス感染症による影響について、令和4年度の釣り客はほぼ横ばい。魚のつかみ取りや塩焼きイベントは回復せず、令和3年度並みであった。令和5年度は管理釣り場を3か所増設し、釣り客は増加の兆し。魚のつかみ取りや塩焼きイベントは新規顧客開拓により、少し上向き基調とのことです。

組合運営の近況等について、アユ漁業権区域のうち4.5km、マス漁業権区域のうち2.5kmが安威川ダム建設工事の補償契約による立入制限区域であり、釣り場の分断と縮小は漁組活動の大きな支障となっている。令和5年度から、ルアーやフライ釣りができるマス釣り場の漁場を3か所増設し、釣り客の増加に努めている。釣りのみならずつかみ捕り等のイベント開催により増殖目標の達成に努めているが、人件費や物価の上昇、組合員の高齢化により、事業運営が極めて困難な状況です。

河川清掃ボランティア団体と一緒に、安威川と下音羽川の清掃活動に

	<p>取り組んできた取組みが令和3年11月に、アドプトリバー龍仙峡として認証を受けました。また、釣り場における釣り客とバーベキュー客とのトラブルが多々発生しているとのことです。</p> <p>続いて、芥川漁業協同組合です。</p> <p>河川の状況について、河川の状況は概ね良好、ただし4～5月にかけて降雨による堰の破損等が発生している。近年、春期の雨量が多くなっている印象があるとのことです。</p> <p>カワウ等による被害について、甚大な被害がありまして、見回りやロケット花火等による追い払いを実施しているとのことです。川幅のあるところでは、防鳥糸の効果が少ないと聞いています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響について、令和4年度と令和5年度ともに団体客の予約が少ない。予約においても新型コロナに感染したとの理由によるキャンセルが少なからずあるとのことです。</p> <p>組合運営の近況等について、近年、役員職員の高齢化が進んでおり、今後定年が伸びることにより、ますます高齢化が進むと考えている。組合員の若齢化に苦慮しているとのことです。</p> <p>尺代漁業協同組合です。</p> <p>河川の状況について、春先の豪雨により釣り場が砂で埋まっているとのことです。豪雨や低温による客足の減少により、売上が減少したとのことです。</p> <p>カワウ等による被害について、カワウは12月頃から、2～3羽早朝と夕方に飛来し、釣り残しを食べつくしているとのことです。</p> <p>民家が近いため、鉄砲や花火による追い払いができないため、防鳥糸や見回りにより追い払いを実施しているとのことです。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響について、来場者の感染防止対策を継続して実施しており、令和4年度は来場者が増加したとのことです。</p> <p>組合運営の近況等について、物価高による魚の仕入れ単価が増、最低賃金の上昇により人件費が増加しました。支出増加分は、経費をカットすることで吸収したとのことです。定期的にゴミ掃除やマナーの広報、安全指導のパトロールを実施していると報告をいただいています。</p> <p>水産課からの説明は以上です。</p>
事務局 (久保書記)	<p>事務局の久保です。</p> <p>令和5年度マス類の目標増殖量について、委員会資料2を用いて説明</p>

	<p>します。</p> <p>ただいま、水産課から、8月末までの現在免許されている増殖指針、令和4年度の実績等について説明いただきました。</p> <p>先程、議題1で9月1日から免許予定の漁業権について、これまでも各委員の方々から増殖指針については、時代の要請等に応じて見直すべきというご意見をいただいております、それを受けて水産課で増殖指針を見直していただいたようです。</p> <p>資料2の右側の2列をご覧ください。令和4年度目標値、上から能勢町漁協が300kg、止々呂美漁協が240kg、安威川上流漁協が150kg、芥川漁協が810kg、尺代漁協が150kgであり、河川の状況やコロナウィルスの状況から見通しができないところも残っている中で、令和4年度実績値はどちらの漁協でもクリアしていただいている。</p> <p>網掛けの部分をご覧ください。議題1で新たな増殖指針に基づく目標量をお示しました。令和5年度目標増殖量（案）については、能勢町漁協が300kg、止々呂美漁協が110kg、安威川上流漁協が140kg、芥川漁協が640kg、尺代漁協が100kg、合計1,290kgとさせていただきたいと考えています。</p> <p>ご審議、よろしくお願いします。</p>
辻野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今の説明について、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。</p>
橋本委員	<p>昨年の実績が伸びていて、令和5年度の目標値を下げるのは、どういった事情でしょうか。</p>
事務局 (久保書記)	<p>新たな増殖指針及び現在の河川の状況を考えますと、生息可能量が減ってきているところがあると考えております。各組合で目標をクリアしていただいております。ただ、コロナウィルスの影響も減ってきて遊漁者も若干戻ってきたかとは思いますが、やはり河川環境等を重視した増殖指針に従い減らすことといたしました。各組合に負担のないような目標を定めさせていただきました。</p>
辻野会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>増殖量の算定基準が実際の河川の生産量をベースとしたものに変更されていますが、そのあたりもよろしいでしょうか。</p>

	<p>私から教えてほしいことがあります。能勢町漁業協同組合の状況に関して、水カビ病の発生等によるマス全滅といったトラブルとありますが、放流する前にマスを畜養していたところで水カビが発生したということでしょうか。</p>
奥一治委員	<p>そういうことです。</p>
辻野会長	<p>この病気の頻度はどのくらいでしょうか。</p>
奥一治委員	<p>結構発生しますね。</p>
辻野会長	<p>そうですか。そのあたりは、水生多様性センターに情報を提供して阻止するような手立てとかはどうでしょうか。</p>
奥一治委員	<p>確かに、そのあたり教えていただけたら。</p>
辻野会長	<p>そのあたり、水生多様性センターでは把握されていますでしょうか。</p>
生物多様性センター （山本研究員）	<p>生物多様性センターの山本です。</p> <p>各組合から必要に応じて、検査の依頼等はいただいております。能勢町漁業協同組合の水カビに関しては、数年前にお受けしたことがありまして、畜養中にカビが生えてしまうということで、傷やケガによりカビが生えているものが見受けられました。これについては、網を替えること、トラックから生簀へ入れる際の状況を改善すること等をアドバイスいたしました。</p> <p>他の件についても、適宜相談等ありましたら回答させていただき、水産課にも情報提供している状況です。</p> <p>全国的にアユも含めて、病気等は収まってはいないものの、急に病気が増えているなどの情報は聞いておりません。今までどおりの対策を講じていただいて、何かあればご連絡いただければと思います。</p> <p>ただ一方、釣り堀的な経営のことについてもお話しが出てきたように、薬を使うと、食用に供する目的であれば、2～3週間放流ができない、釣って持って帰ってもらうことができない状況になってしまう。そのあたりは、病気を起こしたものを治すのか、処分して新たに購入したほうがよいのか、経営的判断が必要になるのも、大阪の特徴であると考え</p>

	えています。以上です。
辻野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>生物多様性センターでもいろいろと対応しているとは思いますが、何か困ったことがあれば、その都度、センターに連絡いただければと思います。</p> <p>生物多様性センターも対応よろしくお願いします。</p>
生物多様性センター (山本研究員)	はい。承知いたしました。
辻野会長	他に何かございますでしょうか。
各 委 員	(質疑なし)
辻野会長	<p>特にご質問等が無いようですので、事務局から説明のあった「令和5年度マス類増殖計画」については、原案のとおり決定したいと思います。が、よろしいでしょうか。</p>
各 委 員	(異議なし)
辻野会長	<p>ありがとうございます。それでは、そのように決定したいと思います。決定した目標増殖量について、事務局の方でホームページでの掲載と公報登載手続きをお願いしておきます。</p> <p>続いて、議題3の「漁業法第90条に基づく資源管理の状況等の報告」について、水産課から報告をお願いします。</p>
水産課 (井上主査)	<p>水産課の井上でございます。</p> <p>続きまして、議題3の漁業法第90条に基づく資源管理の状況等の報告について説明いたします。</p> <p>まずは、委員会資料3-1をご覧ください。</p> <p>内容については、追ってご説明させていただきますが、本資料のとおり、「令和4年の資源管理の状況等について」、報告させていただくものです。</p>

次に、委員会資料３－２をご覧ください。

１つ目、資源管理状況等の報告としまして、令和２年１２月に施行されました、改正漁業法に基づきまして、漁業権者においては、資源管理の状況等について知事に報告することが、新たに義務付けられました。

これは、漁業権が水面の総合的な利用を促進し、漁業生産力を発展させるために必要と認めて免許されるものであることから、漁業権者は、漁場を適切かつ有効に活用する責務を有しています。

それらの取組み状況について確認するため、漁業法第９０条第１項及び漁業法施行規則第２８条第１項では、漁業権者は漁業権の内容たる漁業における資源管理の状況、漁場の活用状況等を１年に１回以上、知事に報告する必要があると規定されています。

また、漁業法第９０条第２項及び施行規則第２８条第３項において、知事は、同報告に係る事項に関する意見を付して、１年に１回以上内水面漁場管理委員会に報告する必要があると規定されています。

つづきまして、２の報告方法です。対象期間は、令和４年１月～１２月の１年分となります。報告方法について、規定の様式を定めて、組合から報告をもらっています。組合から出てきた報告書は、個別の説明はしませんが、参考資料３としてお配りしています。

続きまして、報告内容ですが、大きく２つに分けて、（１）資源管理に関する取組みの実施状況、（２）漁場の活用の状況、について聞いています。

これら内容については、毎年度のマスとアユの増殖目標を決定していただくにあたり確認していただいている内容と大方被っているため、皆さまにはすでにご確認いただいているところであり、説明も被ってくる場所もありますが、漁業法の規定に従いご報告をさせていただくものです。

続きまして、３の報告結果について説明します。

各組合からの報告に対して、知事が確認した内容を記載しています。

①の漁業権行使規則の取組み実績についてです。漁業権行使規則は、漁場を利用できる組合員である行使権者の資格や漁業の方法や期間等を定めています。これについて、漁業実績のある各漁場において、漁業権行使規則に定める内容、漁業の期間や行使料の納付等は遵守されていると判断しています。

②の資源の維持、増殖のため実施している取組です。ここでは、義務である放流に加えて、カワウの対策等の取組みを想定しています。各漁

	<p>場において、放流やカワウの追い払い等の取組みが実施されていますが、2漁場、東能勢漁協と芥川漁協ですがアユの放流ができておりません。こちらでは新型コロナウイルスの影響により実施できていませんと聞いています。令和5年度に関しては放流を実施するよう、指導していきます。</p> <p>③のその他の取組みです。ここでは、漁場の管理維持として清掃活動等を想定しています。全ての各漁場において河川清掃による漁場環境維持の取組みが実施されていると、判断しています。</p> <p>続いて、(2)漁場の活用の状況です。①の行使権者数、操業期間等です。行使権者は、漁業権行使規則に基づいて漁場を利用する組合員です。各漁場において漁場の行使が確認できており漁場が有効に活用されていますが、前述のアユの2漁場については同様の状況です。</p> <p>②遊漁券収入状況です。各漁場において遊漁券収入を確認できていますが、前述のアユの2漁場については同様の状況です。</p> <p>③魚種別増殖実施量です。各漁場においてアユまたはマス類の放流が実施されていますが、前述のアユの2漁場については同様の状況です。</p> <p>④魚種別採捕量です。各漁場において概ね放流量と同程度の漁獲がなされていますが、前述のアユの2漁場については同様の状況です。</p> <p>最後に、知事の意見としてまとめています。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により増殖行為を実施できていない漁場が一部あるものの、当該漁場においては放流を令和5年度から再開する予定であり、また清掃活動による漁場の保全には取り組んでいる状況です。以上のことから、全ての漁業権者は、概ね漁場を適切かつ有効に活用している。以上のように判断をしています。</p> <p>ただいま説明をしました報告について、委員会資料3-1のとおり、大阪府内水面漁場管理委員会会長あて、ご報告をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
辻野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今の説明について、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。</p>
各委員	(質疑等なし)
辻野会長	<p>特にご質問等が無いようですので、議題3については、これまでとします。</p> <p>これをもって、本日の議題の審議は全て終了いたしました。ほか何</p>

	かご意見等ありますか。事務局からも連絡事項等はありませんか。
事務局 (大道書記長)	<p>次回の開催日については、後日改めて日程を調整させていただきます。</p> <p>連絡事項は以上です。</p>
辻野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本日の委員会の議事等は、これですべて終了しました。</p> <p>本日はお疲れ様でした。</p>